

令和6年度 江戸川区立上小岩小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	◎よく考える子 ◎進んで働く子	○思いやりのある子 ○体力のある子	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	魅力ある学校づくり～行きたい学校・帰りたい家・住みたい町～ 「あなたがだいじ あいてもだいじ」（自己有用感の確立と多様性の尊重、人・学校・町への愛着を大切にす学校） 【コミュニケーション能力をもち、自分の思いや考えを表現する子】 【人権意識をもち、自分のよさを理解すると共に、友達のよさも認める子】 【常に創意工夫をし、児童の資質や能力を伸ばす教育を展開しようと学び続ける教師】
前年度までの本校の現状	成果	○児童が毎日学校に楽しく通うことができている。 ○ICT機器（児童の学習用タブレット端末を含む）活用と授業方法の工夫。 ○基礎学力定着につながる指導の充実と学習規律の向上。	課題	○主体的に学ぶ力、考える力のさらなる育成 ○運動の日常化 ○特別支援教育の充実

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○学習の基礎・基本の確実な習得に向けて学力向上委員会を中心とした組織的な取組の実施・充実と授業改善の推進	・校内研究を軸とした学習指導の流れの確立 ・校内補習「のびのびタイム」の実施 ・放課後補習教室の有効活用	・年間6回の授業研究、2月教育課題実践推進校での発表までの授業実践 ・1月1回、のびのびタイムの実施 ・児童アンケートにおいて、80%以上が学力を高めようとしていると回答 ・学習診断シートでの各学年の正答率70%以上	B		B	○校内研究授業（特別活動）において指導の在り方を共有し、実践することができた。 ●基礎・基本の習得に向けた復習の時間を設けたが、より確実な理解につなげる手立てが必要であった。	B	・丁寧に指導をしていただいている。学習に苦手意識をもっている児童への学力向上をお願いしたい。					
	○ICTを活用した更なる学習の推進	・タブレット端末を活用した個に応じた学習の実施 ・メディアリテラシー教育の実施	・毎週、ミライシード（ドリルパーク）を使った個に応じた学習の実施 ・年3回、ICT支援員による校内研修の実施	A		B	○ICT研修の機会を設け、タブレット端末の活用について共有することができた。 ●学年ごと取組に差が出てしまった。	B	・インターネットの使い方や使用時間など、ルールを守って使っていくことが大切だと思います。					
	○読書科の更なる充実	・読書科ノートを活用した探究的な学習活動の実施 ・図書館巡回職員、図書ボランティアとの連携	・年1回、読書活動を通じた学年ごとの探究的な学習の実施 ・年8回の読み聞かせ活動の実施	B		C	○継続的な読み聞かせの時間や読書活動を進めることができた。 ●読書科のねらいや推進、探究的な学習活動にまでは至らない所があった。	C	・静かに本を読む習慣はとても大切なので、学校の中でも読書の習慣がついていけるとよい。					
体力の向上	○運動意欲の向上、体力や健康に関心をもち、高めようとする態度の育成	・ICTを活用した、めあて学習の実施 ・ブレイルーム活用 ・外部水泳施設による水泳指導の実施	・児童アンケートにおいて、80%以上が、運動への関心に対して肯定的な回答	B		B	○外部水泳施設（ド・ワックワ）での計画的な水泳指導を実施することができた。 ●児童がめあての達成に向けて学習に取組むための手立てが必要であった。	B	・校庭がない（せまい）状況なので、工夫して運動できる環境づくりを進めてほしい。					
	○個に応じた体力向上のための取組の実施・充実	・なわ跳びウィーク、運動遊びでの運動時間の確保 ・体力カルテによる現状把握と目標の設定、動画の視聴	・80%以上の児童が校内なわ跳びコンテストに参加 ・タブレット端末による数値の入力、ポイント動画の視聴	C		C	●なわ跳びウィークでなわ跳びに取り組み姿はあったが、十分な時間や場の確保が難しい状況があった。 ●より意欲を高める手立てが必要だった。	C	・なわ跳びは手軽にできる運動なので、積極的に取り組んでほしい。					
教育の推進 共生社会の実現に向けた	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	・教室環境のユニバーサルデザイン化 ・巡回指導教員、特別支援専門員、日本語指導教員との連携	・毎週学級担任と巡回指導教員との振り返りの実施 ・毎月特別支援コーディネーターと専門員の打ち合わせの実施	B		B	○校内委員会や巡回指導員、コーディネーターとの連携を進めることができた。 ●教室環境のユニバーサルデザイン化についての共有の機会の確保が不十分であった。	B	・いろいろな状況の児童に対して、丁寧に指導していただいている。引き続き支援して欲しい。					
	○エンカレッジルーム（特別支援教室）の活用促進	・エンカレッジルームの保護者への理解啓発	・学校公開や保護者会においてエンカレッジルームの紹介の実施。	A		A	○エンカレッジルームについて児童への周知とともに、保護者にも学校公開や個別の面談をとおして伝えることができた。	A	・一人一人の実態を保護者と共有していくことはとても大切だと考える。					
	○副籍交流による連携の充実、交流の実施	・年間計画に基づいた交流	・学期ごと手紙等での交流の実施 ・年2回以上の交流会の開催	A		A	○副籍校との情報交換を行い、計画的な交流を進めることができた。	A	・他校との交流を通して、身に付く心情があると思う。大切にしていってほしい。					
不登校・いじめ対応の充実	○自己有用感・多様性の尊重を大切に魅力ある学校づくりの推進	・特別活動、道徳及び他教科と関連させた指導	・児童アンケートにおいて、80%以上が、学校生活・学習は楽しいと回答	A		B	○特別活動のねらいを共有し、自己有用感を高める指導を意識することができた。 ●他教科と関連させながら学校教育全体で魅力ある学校づくりを進めるという取組の向上が必要である。	B	・話し合うことや自分の意見を言うことは、とても大切なので魅力ある学校づくりを進めてほしい。					
	○hyper-QUの活用	・hyper-QUの実施、分析、今後の指導の改善	・児童アンケートにおいて、80%以上が、学級の居心地がよいと回答	B		B	○全校児童のアンケート（前期）の平均が80.7%で、80%を上回ることができた。 ●アンケートを生かしたさらなる取組を進める必要がある。	B	・アンケートの結果をしっかりと分析して、児童の声を受け止めてほしい。					
	○教育相談の強化	・ふれあい月間の実施 ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーへの積極的な連携 ・5年生へのSC面談の実施	・年2回ふれあい月間、年3回アンケートの実施 ・毎月の相談件数の確認	A		B	○計画的な取組を進めることができた。 ●SCやSSWとのより密な情報の共有、教職員間の教育相談に関する共有の機会の確保が必要である。	B	・専門家の意見も取り入れながら、よりよい教育を進めてほしい。					
学校（園）の地域社会に開かれた実現	○学校ホームページ、連絡メールによる学校生活の様子、配付文書の配信・充実	・学校日記による学校生活の様子の配信 ・ホームページの整理、各項目の更新 ・連絡メールによる文書の配信	・毎週の学校日記の配信 ・毎月の学校だより、学年だよりの配信	B		B	○学校ホームページでの学校の様子を配信、連絡メールでの文書の配信をすることができた。 ●ホームページのさらなる充実が必要である。	B	・学校の様子は、手紙でも伝わってくる。これからも学校の様子を伝えてほしい。					
	○教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・学校評議員会での意見交換 ・保護者アンケートによる教育活動の評価	・年3回の学校評議員会の開催 ・年1回保護者アンケートの実施	B		B	○学校評議員会を行い、学校教育についての意見交換を進めることができた。 ●アンケートだけでなく、様々な機会から、教育活動の改善を進める必要がある。	B	・学校評議員会での意見交換は、学校の様子を知る一つの大きな機会なので今後も継続して欲しい。					
	○教育活動の充実に向けた地域人材の活用	・学校応援団、見守り隊の活動の実施 ・七夕集会での学校評議員による講話	・定期的な登下校の見守り、公園移動の際の見守り ・7月、七夕集会の実施 ・年1回の地域教育懇談会の開催	A		A	○校外委員、地域ボランティア（学校応援団、見守り隊）による積極的な児童の見守り体制をとることができた。 ○地域人材を活用した学習活動ができた。	A	・地域との関り、地域人材をこれからも充実させていき、子供たちの成長につなげていきたい。					
教育の特色ある展開	○道徳教育の充実のための全校道徳の実施	・全学年共通の指導の重点項目を明確にした授業の実施	・毎月の全校道徳の時間の実施 ・児童アンケートにおいて、80%以上が自分も相手も大切にできたと回答	B		B	○「あなたがだいじ、あいてもだいじ」を学習活動でも意識した取組ができた。 ●重点項目に対するの共通理解が十分でなかった。	B	・道徳の時間をさらに大切にして、心の教育を進めてほしい。					
	○教員研修の実施	・教員の組織的な育成、計画的なOJTの実施	・全教員年に1回の教員間の授業公開を実施 ・月に1回、OJT研修の開催	B		B	○OJTの機会を設け、研修を進めることができた。 ●各分掌による計画的なOJTの実施が必要であった。	B	・研修の機会を大切に、研鑽していただきたい。					